

## 令和5年度 学校評価 自己評価書（前期）

## 1 学校の重点課題

- 主体的・対話的で深い学びの実現と思考力・判断力・表現力の向上
- 傾聴と共感を基盤にし、自制心と思いやりの心を育てる生徒指導の推進
- 健康な体と粘り強さを育てる健康・体力づくりと安全指導の充実

## 2 課題と改善策

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
学力向上	1 調査結果分析に基づく対策と実施	2.7	・諸調査の分析を行った。各学年部で授業改善の重点を定め、取組を進める。
	2 主体的・対話的で深い学びの実現	2.9	・主体的・対話的な学習の実現のため、学びの過程や思考の連続性を大切に授業に取り組んでいる。今後は、見方・考え方を言語化したり可視化したりしながら学びを振り返ることで、思考力の向上に努める。
	3 アナログとデジタルのベストミックスの検証	2.9	・デジタルとアナログ、それぞれのよさを生かした学習が展開できるよう、情報交換や相互参観を進める。
	4 特別支援教育の充実	2.8	・多くの児童が落ち着いた環境で学ぶことができるよう、各種委員会で検討したり外部機関と連携したりした。限られた職員数でできる対応を模索していく。
	5 資質・能力を育成する家庭学習課題	3	・家庭学習の手引きをもとに、各学年部で工夫している。家庭学習の改善を念頭に、2年生以上はタブレットドリルの活用(週1回)をスタートした。効果を検証していく。
豊かな人間性の育成	1 基本的生活習慣の確立	3.3	・ゲームやメディア機器の利用により、就寝時刻が遅くなりがちな児童がいる。家庭との連携を図り、各家庭でのメディアコントロールルールの運用を図る。
	2 Momの精神を大切に人権教育の充実	2.9	・Momの精神を大切に指導を行い、教師がモデルとなる言葉かけや行動を示すことで、児童自ら誰かに相談できる望ましい人間関係をつくっていく。
	3 自制心と思いやりの心を育てる生徒指導の推進	3	・他者の気持ちを想像していない言葉遣いが見られる。自分と気が合う仲間だけでなく、多くの人の考え方や価値観にふれながら、自制心や思いやりについて考える機会を積み重ねる。
	4 読書に親しむ態度の育成	3	・読書量に個人差が見られる。まずは、定期的に図書室に行く機会を設ける。
	5 考える道徳の授業充実	2.9	・分かっているにもかかわらず実現できない道徳的行為を想起したり、他者との道徳的価値観の違いに気付いたりすることのできる授業を構成する。
健やかな心と体の育成	1 衛生的な生活習慣の育成	3.1	・「はちつばね」の指導の徹底を図っている。まずは、ハンカチの携行への意識を高める指導に焦点をあてている。
	2 健康な体と粘り強さを育てる体力・気力づくり	2.3	・運動量の個人差がある。熱中症対策を講じながら、1校1運動でもある「なわとび」等、運動をする機会の確保に努める。
	3 家庭と連携した健康意識の向上	3	・学校保健委員会や学級PTAを生かし、各家庭のメディアコントロールルールの設定と実践継続のための取組を行っている。
	4 安全指導の充実	3	・登下校中をはじめ、交通ルールやマナーを守ることに課題があった。継続的に事例を交えながら指導していく。
特色ある学校づくり	1 特色ある教育活動の推進	3.1	・5年生田植えでは、ボランティアの方々の協力のもと、計画どおり実施できた。また、まちづくり協議会と連携し、総合的な学習の時間の充実を図っていく。
	2 教育環境の整備充実	2.7	・落ち着いた雰囲気づくりのためにも整理整頓が課題である。古い物や使っていない物を整理し、片付けやすい環境づくりを進める必要がある。
	3 教職員の資質向上	2.8	・職員は、校内研修や校外研修に積極的に参加している。職員数が削減されたことで、資質向上に向けて取り組む余力が不足しているとの声もある。

## 3 後期に向けての取組

- 育てたい資質・能力を明確にした上で、学びの過程を大切に授業を構成し、デジタルとアナログのベストミックスを検証する。
- 児童の困り感に対し、チームで取り組める体制をつくり、対応していく。
- 持久走やなわとび等、継続的な努力を仕組み、成就感や満足感を大切に体力づくりの充実を図る。
- メディアコントロールルールカードの活用を図り、メディアとの付き合い方について学校と家庭で連携して取組を進める。
- 学校運営協議会やまちづくり協議会、学校支援ボランティアコーディネーターとの連携を図り、地域の教育資源の積極的活用を図る。